太古からの海「羊水」

２０１１年１１月２５日（金）

四日市大学　岩崎・小林ゼミ

前田朋奈、内山文夫、加藤諒、荒木裕、根門正輝

**１章　はじめに**

水・くらし・行政と聞いて一番最初に思ったのが「」に係わるということだった。

ヒトは水なしでは生きていけないということは皆さん知っての通りだと思う。水なしでは今生きていない私たちが実は生まれる前から「羊水」という水によっていたことに皆さんは気付いていただろうか。

20億年以上も昔、海に誕生した単細胞がやがてカエルなどの両生類、陸に上がって爬虫類、そして哺乳類に進化した。ヒトの先祖が姿を現したのは200万年以上前のことで、今でもヒトの胎児は羊水の中でその過程を繰り返している。羊水こそ太古の海のなごりといえる。

　私たちが赤ちゃんのころ、まさに「羊水」という太古の海でくらしていた。今も、数多くの赤ちゃんがこの「羊水」で守られて暮らしている。

**２章　羊水とは**

●胎児を保護する

●胎児を発育させる

●分娩への作用

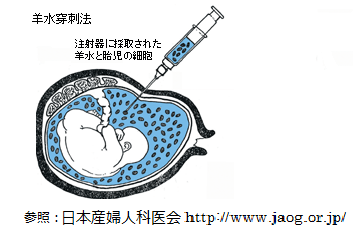
●胎児の情報が分かる

|  |  |
| --- | --- |
| 仮羊水 | 真羊水 |
| 妊娠初期の超音波診断では羊水中に浮かんだ小さな胎芽が発見される。このころの羊水は羊膜との隙間に母体の血液の水分、つまり栄養分がにじみ出た仮の羊水でやがて消滅する。 | 16週からの胎児は、卵膜の内側を被うように拡がった羊膜の中で真の羊水に包まれる。この頃には、栄養はを通じて届く。真羊水の99％は水で成分は幼児が排泄する尿と同じである。 |

**３章　羊水を巡る問題点①羊水検査**

●羊水検査とは

胎児の成長によって上皮細胞、油などが混入した羊水を採取することにより、胎児の健康状態が分かる検査。

●羊水検査のリスク

右の図のように子宮に直接針を刺し、羊水を採取する。そのため、子宮を傷つけてしまう可能性があり、300人に1人の確率で流産してしまう。費用も8万円前後と高めである。

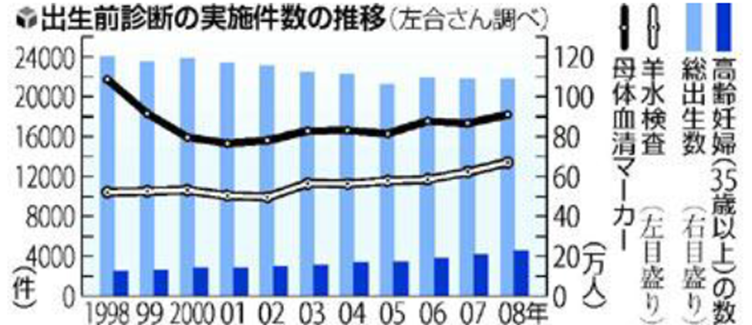
●染色体異常

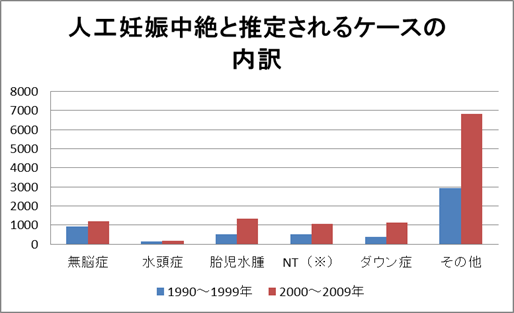
　基本的に「羊水検査はすすめていけない」と決められている。しかし、高齢出産、過去に流産、染色体に異常があった場合は、医者から羊水検査をすすめられることがある。その検査の結果最も多い染色体異常がダウン症である。染色体異常は高齢になるにつれ、高くなっていく。

|  |  |
| --- | --- |
| 母体の年齢 | 発生頻度 |
| 20代 | 1／1000 |
| 40代前後 | 1／100 |

若い妊婦も染色体異常がある子どもが嫌だと思う人がいれば、検査を行うことができる。

羊水検査を含め出生前検査は1990年代に比べ、2000年代に入り、広く認知された。

（※1）

だが逆に、それで羊水検査を含めた出生前検査の結果、先天異常が発覚し中絶に至るということも増えている。

しかし、ここでの問題だと思うのは羊水検査の結果、先天異常の場合に中絶に至った件数だけでなく、羊水検査へ対する妊婦の考え方も大きな問題だ。そもそも、羊水検査などの出生前に行う検査のサービスとは、お腹の中の赤ちゃんの状況、様子を見たりできるもののはずなのに、その羊水検査などのサービスを先天異常が発覚した場合に中絶といった結果に至るという生命の選別行為をしているのではないかといった声もある。（※2）

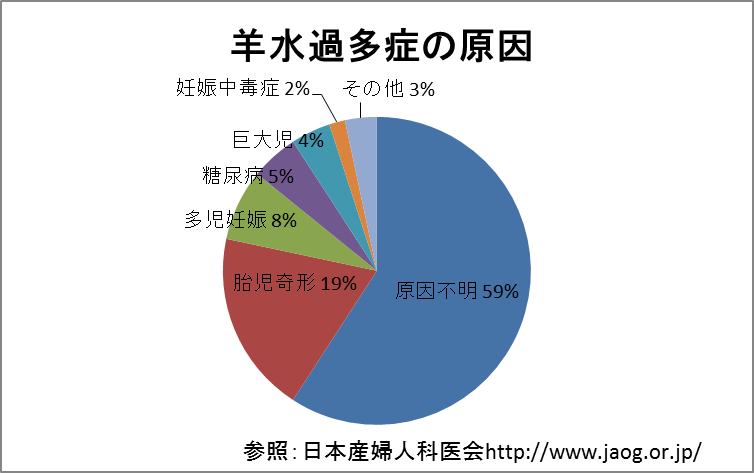
私たちの意見

　検査をして障害があれば堕ろしてしまおうという考えが少なからずある人が検査をするのではないか。優生学的に言えば、そういった考え方は間違いではないだろう。しかし、障害があっても人は人。検査の結果、「障害があるから中絶します」というのは身勝手で差別的ではないのか、と私たちは考えた。せっかく生まれてくるはずの命を親の身勝手さでなくしていいのだろうか。

考察

　羊水検査を受ける妊婦の気持ちとは・・・

**４章　羊水を巡る問題点②羊水の病気**

****●羊水過多症

日本産婦人科学会では妊娠時期を問わず、羊水量が800ｍｌ以上を羊水過多の定義としている。羊水が増える原因は羊水産生が増加して吸収が減少するためである。

この病気は未知数ではっきりしていない。母体側には呼吸困難、子宮収縮など様々なことが起こる。胎児側には奇形など異常が出てくる。

●羊水過少症

羊水の量が少ない病気である。羊水産生が減少して吸収が増加して羊水過少となる。羊水が少ないと胎児は成長していく事が出来なくなる。そのため羊水過少は四肢の圧迫による変形や肺の低形成の原因になるため深刻な問題になっている。子宮の中で死んでしまうことがある。母親が喫煙をしている、飲酒をしているといった妊婦がなりやすい病気である。

私たちの意見

　上記の病気にはどのようなことが原因で病気になるか未知数で、今の医学では治すことの出来ない場合もある。ただ、母親が飲酒や喫煙をすることで、病気になる可能性は上がるのは事実だ。親にとって、飲酒や喫煙はくらしの一部なのかもしれないが、せめて妊娠中は意識の問題で止められるのではないだろうか。

考察

＜飲酒＞

　妊娠中のアルコール被曝により、流産、死産、先天異常が生じる。アルコールが催奇形性を有することは明らかである。

・飲酒による胎児への影響

妊娠初期

心奇形、関節異常などの種々の奇形

飲酒による先天異常

特異顔貌、小頭症など頭蓋顔面奇形

妊娠中後期

子宮内胎児発育遅延ならびに成長障害

精神遅延や多動症など中枢神経障害

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（※3）

・妊娠中のアルコール摂取量と胎児への影響

|  |  |
| --- | --- |
| 一日のアルコール  摂取量 | 胎児への影響 |
| 15ml未満 | 胎児への影響は少ない |
| 90ml以上 | 奇形の発生が明らかに高くなる |
| 120ml以上 | 胎児アルコール症候群発生率30～50％ |

少量の飲酒でも胎児に影響を及ぼす可能性があるということがわかる。（※3）

＜喫煙＞

　タバコの煙には、ニコチン、一酸化炭素、シアン化合物、鉛などが含まれており、胎児毒性とともに血管収縮作用を有する。妊娠中の喫煙によって起こりうることで有名なのが子宮内胎児発育遅延であるが、その程度は喫煙本数に比率しているといえる。

|  |  |
| --- | --- |
| 母親の喫煙の度合い | 出生時の体重 |
| 一般に喫煙している場合 | 約200g軽く生まれてくる |
| ヘビースモーカーの場合 | 約450g軽く生まれてくる |

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（※3）

また、流産、早産、前置胎盤、胎盤早期剥離などの異常も2～3倍増加する。

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 喫煙本数  （１日） | 非喫煙 | 5本以上 | 6～10本 | 11～20本 | 21～30本 | 31本以上 |
| 早産率 | 6％ | 7％ | 11％ | 13％ | 25％ | 33％ |

妊娠中の10本以上の喫煙により、生後の発達スコアの低下を認めたとの報告もあり、妊娠中の喫煙が生後の子どもに神経発達障害を引き起こす可能性があるといえる。（※3）

**５章　羊水と行政の現状**

　いままであげてきた問題について、行政はなにか対策をしているのだろうか。そもそも、行政とは、政府の役割を分業する且つ、私たちの財産と生命を守ることだ。そして、医療に対しても行政は不足を補完することを目的としている。さらに法律に関しては、国会が作った法律は内閣が国民に命令し、取り締まらなければいけない。

羊水を守り、生命を守るのは、行政の務めではないだろうか。

　しかし、現状は・・・各都道府県に妊娠・出産についての相談窓口を設けることと、

妊娠相談窓口として周知させること（2011年7月27日）、（厚生労働省から）

産婦人科診療ガイドライン―産科編2011を作った。（2010年6月13日）

**６章　私たちの提案**

　問題点と現状を照らし合わせた結果、行政はあまり役目を果たしていないように思える。そこで私たちで羊水の中の赤ちゃんを守るために行政に対し、いくつか提案をしてみたい。

１　【問題点①羊水検査についての提案】

　　　羊水検査は生命の選別をする行為である。しかし、障害者の親からしてみれば自分たちが死んだあとその子どもが生きていけるのか、不安になる。障害者や親が安心してくらしていけるような世の中に国や、行政がしなければいけない。だが、今日の日本では、財政的な面から見て難しいだろう。ならば、生命の選別をする羊水検査は母体の生命の危険があるとき以外やってはいけない。

２　【問題点②羊水の病気についての提案】

　　　まず国に「妊婦飲酒・喫煙防止法」を作ってもらう・・・

**７章　最後に**

　正直に言って行政がプライベートなことまで関与するのは難しい。しかし、今回私たちが何度も言った「生命」という言葉。この言葉には大切な思いがたくさん詰まっている。生まれる前から「羊水」という水で守られ、くらしていた私たちが、自身の身勝手さや意識の軽さで「羊水」の中で何の罪もない赤ちゃんを殺している。

　行政とは、本来私たちの「生命」を守ることを目的としている。だからこそ、「羊水」というかなりプライベートなことでも、あえて、表に立って国や行政に主張してほしい。

　今回の発表を通じて、少しでも「羊水」というものを意識してもらって、懸命に赤ちゃんが「生きている」ということを認識してもらいたい。

■出典・参考

羊水の話[www.isobe.or.jp/column/sanka/s68/s68-4.html（2011](http://www.isobe.or.jp/column/sanka/s68/s68-4.html（2011)年４月）

厚生労働省www.mhlw.go.jp/

厚生労働省「保健・衛生行政業務報告」http://www.wam.go.jp/wamappl/bb14GS50.nsf/aCategoryList?OpenAgent&CT=40&MT=060&ST=040（アクセス日2011年6月）

http:www.l.mhlw.go.jp/houdou/1107/h07(厚生労働省)

知っておきたい妊娠　中絶の基礎知識http://www.hinin.info/p13.html（アクセス日2011年5月）

お産にネット[www.geocities.co.jp（2011](http://www.geocities.co.jp（2011)年6月）

先進医療ネット[www.senshiniryo.net/column\_a/21/（2011年6](http://www.senshiniryo.net/column_a/21/（2011年6)月）

プレママタウン[www.premama.jp/tokushu/life\_style/020/index.html（2011年6](http://www.premama.jp/tokushu/life_style/020/index.html（2011年6)月）

山本産婦人科[www.yc-tsu.jp/（2011年9](http://www.yc-tsu.jp/（2011年9)月）

ダウン症と歩こう<http://www.downdiswalk.com/（2011年10>月）

画像参考[www.yc-tsu.jp/](http://www.yc-tsu.jp/)、[www.senshiniryo.net/column\_a/21/](http://www.senshiniryo.net/column_a/21/)

[www.premama.jp/tokushu/life\_style/020/index.html](http://www.premama.jp/tokushu/life_style/020/index.html)

www.isobe.or.jp/column/sanka/s68/s68-4.html

西尾　勝著　『行政の基礎概念』（東京大学出版会、1996年）

『行政の活動』（有斐閣、2000年）

塚本　泰子著『医療中の意思決定―羊水検査を受ける妊婦たち』（こうち書房、2005年）

拓殖　あづみ、菅野　摂子、石黒　眞里著『妊娠―あなたの妊娠と出生前検査の経験を教えてください』（洛北出版、2009年）

■注意

※1）知の知の知の知 - 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会

（http://osaka-ikuseikai.or.jp/sonota/file/titititi/titititi467.pdf）

※2）読売新聞「出生前診断で中絶倍増」2011年7月23日

※3）左合治彦「飲酒、喫煙と先天異常」日本産婦人科医会　先天異常部会サイト

(http://www.jaog.or.jp/JAPANESE/PUB/senten/indexhtn)